

注意報第6号

各関係機関団体の長
各病虫害防除員
農業資材販売等関係者
} 殿

福岡県病虫害防除所長

平成20年度病虫害発生予察注意報第6号について

このことについて、病虫害発生予察注意報第6号を発表したので送付します。

茶

- 1 病虫害名：カンザワハダニ
- 2 発生地域：県下全域
- 3 発生時期：早い
- 4 発生量：平年・前年より多い
- 5 注意報の根拠
 - (1) 2月5半旬の調査で、茶樹裾葉における寄生葉率は7.1%と過去9年間で最も多く、50葉当たり寄生虫数は、12.9頭と過去9年間で最も多かった平成17年に次ぎ多い発生であった。また、発生ほ場率も77.8%と平年より高い(表1、図1、図2)。
 - (2) 表層・裾葉ともに産卵・越冬後第1世代孵化幼虫の発生が認められ、裾葉における越冬後第1世代孵化幼虫の発生ほ場率は、27.8%と過去9年間で最も高く発生時期が早い(図3)。
 - (3) 向こう1か月の気温は高いと予想されており、今後発生量及び表層への移動が増加することが予想される。

表1 カンザワハダニの発生状況(2月5半旬)

	寄生葉率(%)		50葉当たり寄生虫数(頭)		発生ほ場率(%)	
	表層	裾葉	表層	裾葉	表層	裾葉
本年	0.7	7.1	0.6	12.9	22.2	77.8
前年	1.0	4.5	0.7	7.3	23.1	50.0
平年	1.0	3.4	1.0	5.5	26.9	53.2

注) 表層の平年値は前10か年の平均。裾葉の平年値は前9か年の平均。

- 5 防除上注意すべき事項
 - (1) 裾葉を中心に発生状況をよく観察し、越冬成虫の寄生葉率が2%以上である場合は、成虫、幼虫、卵に効果の高い薬剤で速やかに防除を行う。
 - (2) 春期の基本防除は、孵化幼虫の発生初期をねらって、平坦地で3月1~5日頃、山間地で3月5~10日頃を目安に徹底する。

- (3) 薬剤は、寄生の多い裾葉・葉裏に十分にかかるよう丁寧に散布する。
- (4) 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- (5) 農薬散布の際は使用基準を遵守するとともに、近隣ほ場への飛散防止対策を講じる。

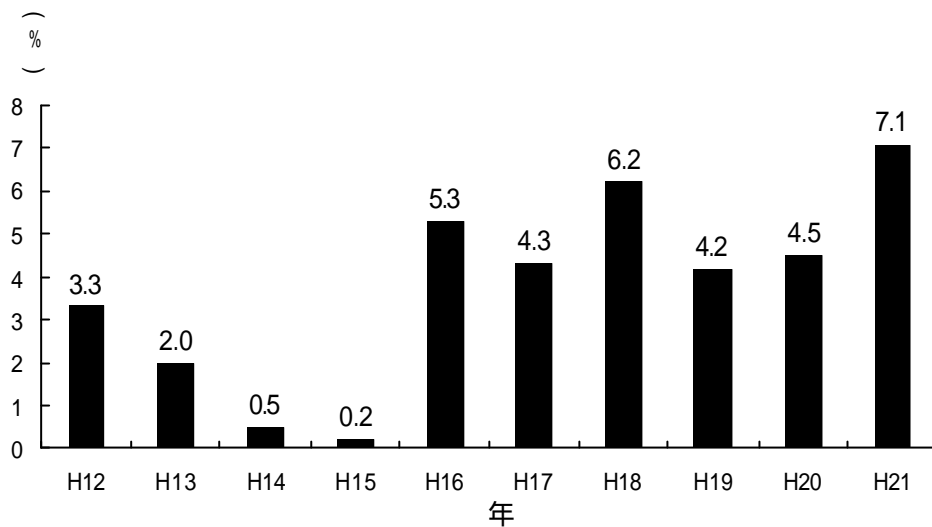


図1 裾葉の寄生葉率 (2月 5半旬)

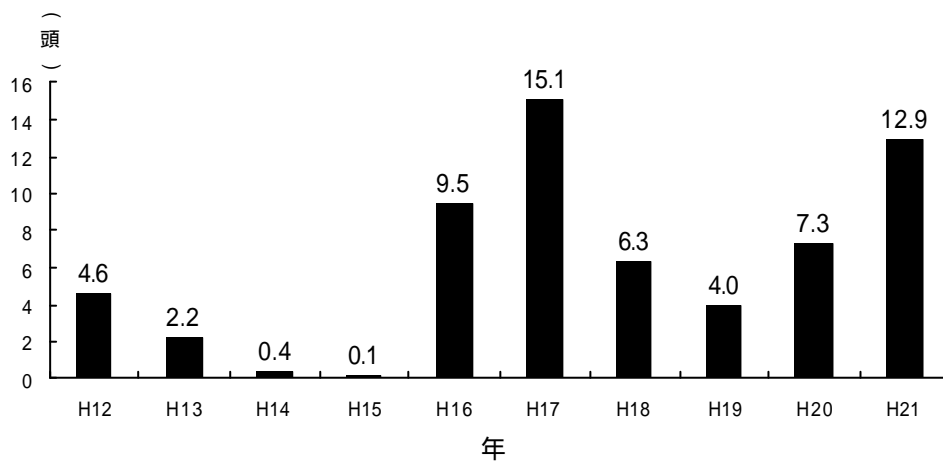


図2 裾葉の50葉当たり寄生虫数 (2月 5半旬)

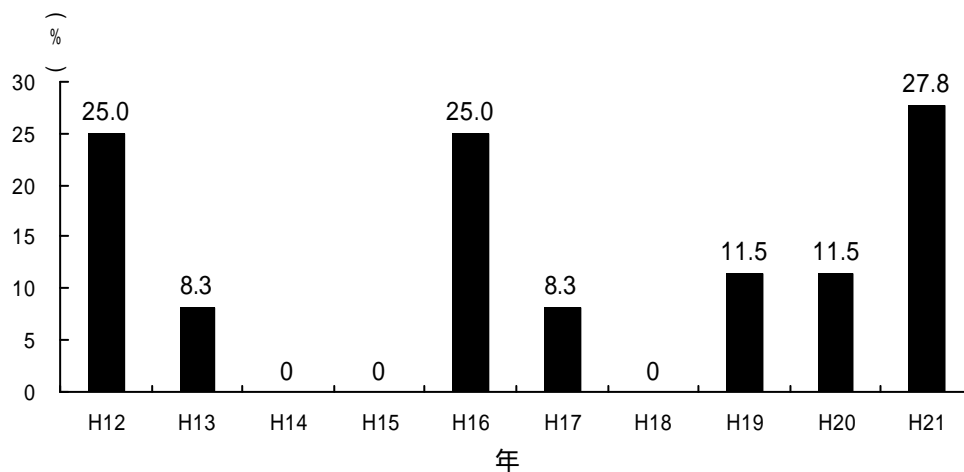


図3 裾葉の孵化幼虫の発生ほ場率 (2月 5半旬)